

パブリックイメージリミテッド

萩原雄太

凡例

- 「 …… 発言
 - 』 …… 思ったこと
 - ◻ …… 固有名詞化・慣用句
 - ◇ …… 前の発言のトレース
 - …… 意味は同じだがニュアンスが異なる単語
 - …… 補足（発音しない）
 - …… この直前の音から次の台詞が挿入される
- …… 41分～46分のこと

■作品の登場人物

私 僕

※便宜上、初演時の俳優のイニシャル及び名前を使用している

S 清水

Y 横手

H 林

I 井黒

M 松原

■あらすじ

2011年2月10日、2時41分〜46分まで、新宿駅東南口での出来事。

「僕」と「私」は新宿にいた。「僕」はアフリカの子供を救うための募金活動をしていた。といっても、熱心にやっているわけではない。ただ、流れでやっているだけだ。「私」は、友達との待ち合わせの約束を反故にされた。これからどうしようか……と暇を持て余している。N人の頭のなかには、過去の出来事や今気がかりなことが浮かんで消える。子供の頃に喘息にかかったこと、知恵遅れの同級生を殴ったこと。

いつもの新宿の様子とは少し異なるのは、そこに通り魔の予告が出されていたからだ。表面上には、相変わらず喧しい新宿の雑踏がある。

S 清水穂奈美
I 井黒英明
H 林弥生
Y 横手慎太郎
M 松原一郎

2011年2月10日(木) 14時41分～14時46分の話

※スタンドII通訳者が男・女の代理で立っている状態

開演時間になったので、俳優たちは仕方なく舞台上に登場し、一列に整列する。

井黒	パ
松原	ブ
林	リ
清水	ック
横手	イ
松原	メ~~~~~ (羊の鳴き真似)
清水	ミジ (無視)
林	リミテッド

全員、ちよこんと一礼する。

どこからか聞こえてくる声を反復するように

女H にせん、二年(2011年)、2月の10日の、話です。14時、41分、です。

スタンドH

女A 「新宿に、【私は新宿に行きました。新宿にはすぐたくさんの方がいました。歩いて、いました。若い人も、年をとった人もいました。冬、で、だったので、コート、の人がたくさんいました。あんまり派手な色ではなく、地味な、黒とか、茶色とか、そういう人ばかりでした。【私は新宿に■行きました。

女I 「私は、【新宿の駅の、Rの、ホーム】にいました。電車を降りました。【新宿の駅の、Rの、山手線のホーム】にはたくさんの方がいました。ちょうどホームの向こう側にも、電車がドアを開けたので、人がたくさん出てきました。たくさんの方が、電車に乗ったり、電車から降りたりしました。冬、なのに、あんま『寒いな』とは思いませんでした。駅員さんが「押さないで下さい」と言いました。駅員さんが「無理なご乗車はおやめ下さい」と言いました。階段がありました。6つありました。下に行くのが2つと、上に行くのが1つありました。もしかしたら、もう1つか2つあるかも知れませんでした。一番近いのは下に降りる階段で、それは、【西口の方に行くのに便利な階段】でした。【西口の方に行くのに便利な階段】は使いませんでした。それではなく、上に向かう階段を上りました。上ったのは、階段ではなく、正

確には■エスカレーターでした。

女Ⅰ 上、にはたくさんの人がいました。本屋がありました。お土産みたいなのを売っているお店がありました。あと、ドトールと、ちよつとオシャレな、高そうなドーナツのお店がありました。ドラッグストアも入っていました。あ、咳止めの薬を『そういえば切れてたな』と思いました。「私」、はたまに喘息■になりました。

女Ⅰ 南口は、わかんないですけど、「〇個くらい自動改札がありました。そっちの方から（出て）行ったり入ったりする人がたくさんいました。そっちに行けば小田急線とか地下鉄とかの方に行けました。南口の改札の外には花屋がありました。その横には柱があつて、その柱のあたりによつかかりたりしながら、携帯をいじったりして待ち合わせをしている人がたくさんいました。「新宿■」には人がたくさんいました。【季節の変わり目】とかに、よく喘息になりました。喘息になると、「私」はこの世で一人ぼっちなんだなあと感じました。【季節の変わり目】とか、冬の乾燥している時とかに、喘息になりました。いつも、夜中になりました。夜中に喘息になると、『孤独だなあ■』と感じました。

女Ⅰ 南口の改札を通り過ぎました。今の〈通り過ぎた〉っていうのは、その、〈改札を通った〉っていうことではなくて、〈改札を通らないで通り過ぎた〉という意味でした。まだ昼間なので、人はそんなにいない方でした。でも、何回か人にぶつかりそうになりました。あんまりこんなたくさんの人■がいるとこに慣れていませんでした。

女Ⅰ 「私」は大学の時には、「東京」に住んでいました。「今」は、地元に住んで■ます。その日は2011年2月10日でした。木曜日でした。

女Ⅰ 「私」はユミカという友達と待ち合わせをしていました。【久々に会う友達■】でした。

女Ⅰ 向こうからやってくる人にちよつとぶつかりました。「あ、」と、声が出て、「私」は小さく会釈をしました。向こうも、同じように小さく会釈をしたような気がしました。ちゃんと見ていなかったもので、本当にそうだったかは■わかりませんでした。

女Ⅰ ちよつと歩くと、埼京線とかその辺があつて、その先に自動改札機が並んでいました。〇つとかヤつくらいの小さな改札でした。人は、あんまりこっちは使ってなくて、埼京線とか湘南新宿ラインの人とかも、こっちの、南口の方に流れてくるみたいでした。「私」は、また、ぶつかりました。けど、「あ」って言うだけで「すいません」とは言いませんでした。「私」は、この一分とかで、もう人にぶつかることに慣れてしまったみたい■でした。

女Ⅰ 今、喫煙所で、タバコに火をつけます。14時11分、■です。

女Ⅰ 「私」、は「新宿」の東南口に出ました。

スタンド＝M

*

男E

「僕」は、「新宿」に、いました。「新宿」の東南口の下の広場のところにいました。東南口の階段の下の広場のところで、木があつて、そこに腰掛けられるようになっていました。「タワレコとかが入ってるビル」があつて、そこには、ギャップとかシツプスとかが入つて、あとタワレコとかも入っていました。パチンコ屋がすぐ前にありました。決めてあつた集合の場所は、その木のところでした。他にも待ち合わせっぽい人がちらほら■いた感じでした。

男S

集合は、「二時集合」でした。けれども着いたのは二時二十分頃でした。急行が、乗り換えの所で失敗して、すわーっと発車して『あーっ』て、車掌さんと一瞬目が合ったような気がしました。『今日はだめだなあ』っていう、朝、一番初めに乗る電車が、目の前で発車した日は、「大抵、いろんなことがうまくいかない」ので、来たときは、あと心人が来てて、「おお」っていう『うーわ遅刻した』っていう感じではありませんでした。ていうか遅刻した「僕」、が言うのもあれなんですけど、『え何かもうちょつとちゃんとしてもいいんじゃない？』っていう。「寒(さつぷ)いねー■」と言いました。

男E

寒いのが結構苦手だったので、「僕」は、かなり厚着して着膨れしていました。あと残りの心人はもう10分か15分くらいして■から来ました。

男S

ふつう、休日にするんですが、この日は「それをあえて平日にやってみよう」ということで、平日にやることになりました。「僕」は『平日はどうなんだろう』と、まあ(けど)『ライバルも少ないし、もしかしたら平日の方がかえって集まるん■じゃないか』。

男E

【2011年2月10日木曜日】でした。

スタンド＝Y

男S

二人一組で、「一人がアフリカかどつかの子ども看板を持って、一人が募金箱を持って」っていうスタイルで、それは、【発展途上国の子どもたち】のための募金でした。募金したお金はユニセフとか赤十字とかに寄付しました。シガさんっていう上の人が、その辺をやってくれました。シガさんはお金とかにきっちりしているし、

ちゃんと【いくらいくらどこそこに寄付した】って■いう明細を出してくれたりして、すごくしつかりやつてる人でした。

男H
グッパでコンビを決めて、「僕」はササキさんと組みました。やるのは募金箱の方をやりました。ササキさんは女の人で、あんまり絡んでない感じで（だから）『ササキさんかあ』っていう。「じゃあ、よろしくお願いします■」とシガさんが言いました。

男S
それは、NPOっていうか、そういう集まりみたいな感じでした。認可は受けていないんですけど、【目指して頑張ろう】みたいな。大学の頃に一回、そういうボランティア系のサークルに入ってる、そこはフェードアウトしちゃったんですけど、その流れでちよつと仲良くなった先輩が（に）、誘われて、「じゃあ」っていうこと。ちよつどその時、『真剣にちよつと彼女欲しい』っていう、しばらくそういうの■なかつたので、『そろそろ彼女が欲しいなあ』と思っていた頃でした。

男H
でも、男女比は8:2（はちにー）くらいで、しかも女子は全然戦力になる感じではなくて、その期待は見事に裏切られました。ササキさんも、戦力にならないっていうか、【ある意味戦闘力高そう】っていうか、あんまり、一般的には、あの、あんまり顔がよくないっていうか、『ブス』って、いう。でも何か自分のこと宮崎あおい系のいい女■みたいな。

男S
でも、（平日逆に）みたいなのは全然間違っていました。途中経過なんですけど、2時間やって300円とかでした。【僕】らは、募金活動をしていました。300円という数字は【募金活動をしている僕ら】という存在をかんげんに（完全に）否定する形となりました。それは結構【惨憺たる状況■】でした。

スタンド変わるー

男S
大学の時ののは、【政治的】というか、ゴリゴリ、もう【学校のやることは全部反対】みたいな、そこそこ、ちよつとかわいい子とかもいたりしたんです■けど、

男M
「普通反対だよね」

男K
「ですよねー」

男N
「大学当局はああいうところだから」

男Y
「ですよねー」

男N
「キミ、マジで分かってるよねー」

男Y
「はい！■」

男S
みたいな空気が、の、【強制感（？）】みたいなのが【僕】はあんまり好きになれな

男H

くて、そもそも『え、当局って何すか』(笑) っていう、引いて
コーンポタージュの黄色い缶が自販機から「ガタッ」って音を立てて出てきたのを
取って、すごく温かくて、首の所に当たると、すごい、温かいです。14時、えっと、
4分■、ですね。

*

スタンドH

女I

「私」は東南口のところの改札を出て、そこは少し広くなっていました。出るとす
ぐ【タワレコとかが入っているビル】がありました。ギャップとかシップスとか、
あと、タワレコとかが入っていました。改札出たところの、階段■を降りました。

女X

「私」、が、喘息になったのは結構小さい頃からで、おばあちゃんの家で猫を飼って
いて、その猫の毛に反応してよく喘息になりました。普段からなるわけじゃないん
ですけど、大人になってからも体調の悪い時とかにホコリっぽい場所に行くと喘息
になりました。でもそれは、【命■に関わったり、普段から病院に行ったりしなきゃ
ならないレベル】ではなくて、市販の、咳止めの薬を飲んでしばらくすると収まり
ました。

スタンドS

女Z

(広場には)人が、平日なのに、多いみたいでした。階段は手すりですつに別れて
いました。階段の、左側の方が降りる人が多かったのですが、なんとなく、「私」は
右側の方から降りてまたぶつかりそうになって、スルーしました。正面の所に、木
が植えられていました。何の木かはわかりませ■んでした。そこは待ち合わせ場
所によくなっていました。

女H

「私」は、猫の毛に反応してよく喘息になりました■。

女Z

階段を降りると、喫煙所に行きました。喫煙所はその階段の下の右にありました。
右の方を登る人が多かったので『そっちは通らないほうがよかつたな』と■思いま
した。

女H

さつき、電車の、【高田馬場と新大久保の間】くらいでメールが入りました。正確に
はその分位前に、池袋あたりで入って■いたみたいでした。

女I

「いろいろあって行けない、ゴメン」というメールが入りました。ユミカからでし
た。ユミカは絵文字をあんまり使う人ではないんですが「ゴメン」という文字の後

ろに、「汗」の絵文字が添えられていました。それで、そつけないけど、「あ、ユミカ、けつこう申し訳なく思っているんだな」

ユミカに「了解」と打って、『何か違うなあ』と思つて、「わかった」と打ち直して、『でもちよつと何か冷たいんじゃないか』つていう↑感じて「わかったー」にしたけど、そこで一回改行をして、『あー何か入れなきゃ』つていう、「私」も絵文字入れるあれがあんま無いので『えー、でも、何入れよう』つて、いい感じ■の言葉が出てきませんでした。

女E 【高田馬場と新大久保の間】から、新大久保を過ぎて、「新宿」につきました。新宿についたので、ケータイを一回閉じて、電車■を降りました。

女I 『何だよ』つていう、『もうちよつと早く言つてくれないじゃないか』と思いましたが。今日は、目的は、【ユミカと会つてぶらぶらしてご飯を一緒に食べる】だけだったので、『そしたら来た意味がなくなるじゃん■』

女M 『はあ？ もうちよつとぶざげんなし』

女N 『マジでか、うーわ、』

女H 『てか意味わかんないし』

女I 『え、ドタキャンとかありえないんだけど』

スタンディング

女S 『あー、まあでもユミカ、昔からわりとそんなだよー』

女H 「目的」は友達と会うということでした。大学時代の友達でした。大学の時は、「私はこつちに住んでいました。会うのはユミカという子でした。授業が一緒に、グループで発表したりして、卒業してから、私は地元帰って、ユミカは実家が東京なのでフリーター■でした。

女M ユミカの彼氏さんについては全然知りませんでした。(ユミカの彼氏さん)は半年に一回くらい変わるの、覚えてたりしても意味、が、■ありません。

女S 『せつかく来たのに』と『時間かけてきたのに、何だよ、特急で来たのに』と『まあでもそんな怒つてないよ』つていうニュアンスを差し挟むベストなメールの文面を考えていましたが、でも、何かユミカの、その「状況」つていう(のを)、考えると、うまい、【何かいい言葉】が見つかりません■でした。

女H 今朝、出るときとかは、『あんま、こんな日に行きたくないな』と思つていました。けど、実際に来てしまうと、『せつかく来たんだから』と『あんまそんなとんぼ返りとかはしたくないし■』と思いました。

スタンドⅢ(アスタリスク後も続きで)

女S
タバコが、一口吸って、火があまりついてなかったので、付け直します。14時42分です。【私■は、東南口の喫煙所にいます。

*

男E
今、【僕】は14時、28分■で。

男K
【僕】は「白いところ」に入らないように注意しま■した。

男I
広場のところは、地面のタイルが白いんですが、広場から繋がっている道路の歩道のところに行くとき茶色になっていました。「白いところ」は「Jカルミネかなんかの管轄で、だから、「白いところ」で入ってやると警備員さん■から「ちよつとここで「つていうクレームが来ました。なので、「僕」らは「白いところ」に入らず「茶色いところ」でやらなければなりません。でも、ちゃんとした許可をとつてないので、「茶色いところ」でも本当はダメなんです。警備員さんに言われても歩道の「茶色いところ」なら大丈夫なので、「茶色いところ」でやりました。だから、そこに【見えない壁】というか、【白と茶色の境界線】みたいな。

男S
「街頭募金」つて今、少なくなつて、そういう詐欺とかがあるからで、【何に使われるかわかんない】つていう。【それなら、直接赤十字とかそういう所にするとか、コンビニのレジの所にあるのとかに(募金を)しよ■う】ということでした。でも【僕】は『ここは全然しつかりやつている方』だと思ってるんですけど『NPOとかじゃないから募金する方もためらうよな』『当然だよな』つて。

男Y
〈3時間くらいやつて300円〉とかつていうのは、わりと最低な方に入る結果で『僕のせいかな』とちらつと、でも他の人も900円とかくらいだったらしらつて、そういうわけではない■ようでした。

男I
そう……、まあそうだから、【白と茶色の境界線】みたいな。

以下、スタンドなし

男H
僕は募金活動をしていました

男A
あ、で、その集めたお金はユニセフとかに回されて、発展途上国の子どものために使われました。【病気を予防するためのワクチン】とか、【ストリートチルドレンと

か子どもの兵士をなくすための運動』とかに使われました。井戸を掘ったりするのにも使われました。いろいろ、要するに、【外国の子ども■のため】(っっていう)

でも声を、出すのは、結構何回もやっても、【僕】は、はじめは全然恥ずかしいと感じるんだけど、でもそれも結構すぐに慣れて、10分とかであんまり恥ずかしいとかは思わなくなっちゃって、【機械的に】、声、を↑「お願いしまー」っっていう■、出しました。

男A あーでも、寒くて『ちょっとこれは』と思って、休憩っっていうか、「支障がない範囲」で抜けるのはありだったんで、パチ屋のところの自販機で、コーンポタージュを買いました。120円でした。なんで、変な話、その【利益】(っっていうか)、【募金が産み出した儲け】っっていうのは300円もらえたので120円引いて180円に■なりました。

男I ササキさんが、の

男H 『募金団体』あじさい』です。発展途上国の子どもたちに支援をお願いしま■す」に続いて

男M 「お願いしま■ー」

男H 「100円で5人の命が救えまーす」

男M 「お願いしま■ー」

男H ほとんど(の人が)早足で、無視してさっさと行きました。気になった人も、その場で見るのではなく、なんか【3メートルくらい離れてから振り返る■】っっていう。

YMI(イヤホンしながら)3メートルくらい離れてから振り返る

男I こんな■感じでした。

男S その、(こんな日)なので、尚更なのかもしれませんでした。「僕」も、あんまり、「この場にいたくない」というか、『気持ち悪いよな』っっていう、思いました。(こんな日)なんで(っっていうのは、つまり【ネット上で、通り魔の犯行予告が起こっっているような■】という意味でした。

男H ネットで犯行予告が流れていました。その予告っっていうのは【2月の11日で、東南口で、起こす】ということでした。【今日】は、2011年の、2月10日でした。それは、【3人くらいで、通行人をメッタ刺しにする】っっていうような、そういうことを書いていました。わりと、新宿っっていうこともあって、けっこう話題になっって『気をつけてください』的なことを(が)ツイッター上で、「僕」は気になっって、とりあえずリツイートして、でも『明日だし、まあいいか』っっていう。それっって■っっていうの

は、

男 S 『こういうのは、本気でやるつもりならそういうことをネットに流したりしないだろうから大丈夫■だろう』

男 H 『ていうかそもそも明日だし今日は大丈夫■だろう』

男 I とか■

男 M 『自分はまあ大丈夫■だろう』

男 I みたいな。あー■だから

女 H くらい離れて振り返る

男 A 「僕」はわりとよく「楽観的だよな」とか言われる方■でした。

*

女 S ユミカからメールが入って、それは、『来れない』っていうユミカからのものだったので、『え、どうやって返信しよう』と思い、返信をしようとしても、『全然なんていつたらいいものか』で、結局【放置■】っていう

女 I でも、だから、『■何したらいいかわかんないわあたし』っていう、

女 H 捕まったのは中学生で、『○人で犯行をする』とか言ってる、DSでしかも【犯行予告】とかしちゃってしかも、何かお兄ちゃんが弟の代わりにとか、よくわかんない事件を起こしたりが、それは（この話とは）全然関係ないんですけど、○ちゃんのまとめで見たらすっごい叩かれて■ました。

女 A だから、何でそのユミカのメールが面倒なのは（かっていうと）、直感的に『あ、これ彼氏と別れたんだろうなあ』と思ったからでした。何か、そういう、別れたとかの機会にめぐり合ってしまうことが多くて、だいたい『いろいろあつて』という人は、○人くらい、別れたっていうタイミングで、ユミカも「彼氏とあんまりうまくいってない■」って

女 H 「え、そうなの？」

女 S 「なんか」

女 I 「あ、そうなんだ」

女 M 「んー」

女 S 「こないだとかでしょ」

女 H 「でももうのヶ月だし」

女Ⅲ 「え、でもまだ■じゃん」

女Ⅳ 「えでも全然もうなんだ■けど」

女Ⅴ だから『多分っていうか絶対そう■なんだろうな』と思いました。

女Ⅰ それで、いろいろ返信を考えたんですが、向こうは「彼氏と別れた」って言うてるわけじゃなくて、「いろいろあつて」なので、『そこは敢えてこつちから察する必要はあるのか』っていうか『その気持ちを汲んだ方がいいのかどうなのか■』とか。

女Ⅱ でも、別に傷つきたいわけではないので、わりとユミカ昔からそんな感じで迷惑かけたりとかデフォだからいいんだけどだ、『あ、いや、せつかく来たんですけど…』あたし』みたいなニュアンスも、でも改行して、したところで、文字の入れる棒がずつと点滅して■いました。

女Ⅰ でも、『あー何か結局何にも買わないでグダグダな一日になりました■』っていうのは避けたいなと思いました。

女Ⅳ でも『また、来月とかになつたら、喘息が出るんだろうな■』と思いました。

女Ⅴ でも『誰でもよかつたっていう感覚は、わかるなあ』と思いました。それを感じたのは、秋葉原■の時もでした。

女Ⅲ エジプト■では革命が起こっていました。

女Ⅱ 「小児喘息なので、大人になるにつれて治ります」おじいちゃんの先生でした。「大人になるにつれて、体質が改善したらだんだん治るケースもありますんで、あんまり心配しすぎないでください」みたいなことでした。体質の改善の薬をもらって、しばらくずつと飲んでいました。けど、治らないで、その（今（2011年））に至りました。冬場はなるべく掃除をしました。「フローリングだとホコリが舞い上がるから、和室の方がいい」っていうことで、部屋探す時「私」のお母さんは「和室の部屋がいい」と言っていました。そういう部屋であんまりちゃんといいのがなくて、フローリングにカーペットを敷きました。「私」は、前は「東京」■に住んでいました。

*

男Ⅳ 「新宿」で、募金しながら「僕」、は、の（頭の中では）、小八木くんのことを考えて、（小八木くん）っていうのは、普通の教室と特別学級を行ったり来たりしてる子で、知的障害っていうほどでもないんだけど、【知恵遅れ】、とかの人で、「僕」は、その小八木くんのことを一回だけ「殴った」こと、があつて、すつこい怒られたんですけど、そういうテロとか、そういうのがあると「僕」の（頭の中にある）【小八

木くんの引き出し」が■開きました。

男一 小八木くんは小学校の低学年の時に6年生の終わりまで、同じ学校でした。でも、その後に転校しました。

男S 今日とは■【2011年2月10日木曜日】でした。

男A 3メートルくらい離れてから振り返る人で、戻って入れてくれる人はいませんでした。そのまま、足も止めずに歩いて行きました。『足くらい止めてもいいじゃんか』『え、ピラくらい貰ってくれてもよくね?』っていうか『もしも、ササキさんがもつとかわかったら、満島ひかりみたいだな人だったら、みんなもつと募金してくれるのになあ』でも、通り過ぎた人に対して、いちいちイライラすることはできないっていうか、普通に無視されるんで、(目に、入っていない)っていう、存在が↑僕らの、そもそも見えてないっていう、いいんです■けど

男M でも、30分くらいして、チャラそうなホストみたいな男が200円入れてくれました。『チャラッ■』っていうのが『申し訳ないなあ』と思いました。

男H でも、秋葉原があつたので、『全然気にしないっすよ』っていうスタンスでは■なくて。

男N なんか前、シガさんは「募金って主張だし、演説みたいなものなんだよね」って、だから「募金活動でいくら集めたか」じゃなくて、「それよりも、そういう活動をするというか、そういう状況があるっていうことを知らせることが大事なんじゃない」

男A 「あー」

男M 「アンテナに引っかかれば、こういう発展途上国で、苦しんでいる子どもがいるということを知ってくれば、この状況が変わるかも知れないし」

男A 「お■ー」

男一 シガさんは牛井屋でバイトをしていました。夜勤で、時給は1030円という■ことでした。

男A 「え、何でシガさんとか、そんなバイトしながらこういう、やってるんすか?」

男S 「あー、何でだろうね」

男S 「え、何でシガさんとか、そんなバイトしながら、こんな、金ないのにしてんすか?」

男一 「あー、何でだろうね」

男一 「え、だから、何でシガさんとか、そんなバイトとか苦労しながら、こんな意味あらかわかんないこと、金ないのにしてんすか?」

男H 「あー、何でだろうね」

男S ホームレスがいます。木のところで、みんなが待ち合わせをするところです。女の人です。大きな荷物を持っています。重たそうではなく、慣れた感じ。木の

周りだけが人がまばら■です。「ここ」は「新宿」の東南口です。

男Ⅹ 「え、明日つて、もしかしたら、ここで、何か、通り魔とか、起こんの？」

問

男Ⅸ

あの、僕、コーンポタージュ（半笑い）がすごい美味しくて、僕はいつも切らさな
いんですけど、それに気付いたのとかってわりと最近【大学入ってから】くらいで、
友達が家来るときに、コンビニで「リットルのやつを買ったら」「それ買う？」「みた
いなリアクションをされて、「え、普通じゃん」と思ったんですけど、家で冷蔵庫に
飲みかけのコーンポタージュを発見して「またコーンポタージュだよ、」みたいなツ
ッコミを入れてきたので、「いや、だから普通じゃん」とか普通に「そんなに普通コ
ーンポタージュ飲まない」って「あ、え？ そうなんだ」、それから意識するように
なつて、『そーいえば、家でコーンポタージュ切らさないようにしているし、外でも
自販機で冬とかよく電車待ちの時とかω日に一回くらいに飲んでるよな』っていう
事実気づいて、だから、『あ、自分が好きということに気づいた』っていうか、ち
やんと言うと、『他の人はそんなにコーンポタージュを好きじゃなくて、だから、相
対的に僕はコーンポタージュが好きの人』っていうことになりました。

*

女Ⅰ

向こうの、パチンコ屋の歩道の方に、募金の活動のしてる人がいて、何人かでやっ
ていました。ユミカの、でも「私」は■返信が。

女Ⅱ

何か向こうの、募金の活動は、なんか覇気がないっていうか、『しつかりやれよ■』
みたいな感じでした。

女Ⅲ

それは、発展途上国の子どものための、みたいな募金でした。『寒いのに頑張るよな』
と思いました。でも、全然頑張ってる感みたいなのは無い感じ■なんですけど。

女Ⅳ

『喘息の薬つて、別に東京で買う物でもないし■なあ』

女Ⅴ

「発展途上国の子どものために支援をお願いします」女の人がいきました。誰にも、
全然、その声は聞き取られてないみたいでした。結構大きな声だったんだけど、全
然聞こえてないみたいで。でも『声聞こえてないけど、寒いけどあたし頑張つてま
す』みたいな感じを予想したら、その（私は、）結構軽くイラッとして『善意押し付
けんな■よ』

女Ⅰ

「100円で、5人の子どもの命が救えます■」

女Ⅱ

「お願いしまー」

女Ⅰ アフリカ？の、子どものポスターみたいなもの、持つてる女の人とかいて、こっち見て、振り返ってる、子供■とか。

女Ⅱ 『え、バイトしたほうが早いじゃん。そんな、人に求めたり』

女Ⅲ 『すごい何か【暴力■】っていうか』

女Ⅳ 「お願いしまー」

女Ⅰ つて■いう、『おめー短期バイトじゃねえんだからよ』つて思つて。

女Ⅱ そもそも「私」は、メールの返信とかが全然遅いほうで、それつて言うのは、何か、相手にすごい【負荷】とかかけたらどうしようつていう。一方的に『ちよつ、おまつ』■みたいに思われるのつて嫌で。

女Ⅲ 『え、何、私なんか悪いことしてんの？ 募金とかしないあたしは悪なの？』

女Ⅳ そう、あー何かメールつて、そもそもすごい自分勝手つていうか、だと「私」は思つて。だからメールつてめんどくさい■んだなつていう。

女Ⅴ 『あーそういうば昔よくここに■ストリートミュージシャンみたいなのがいた』

女Ⅵ 『あーそういうば昔よくここで愛だの歌つてる人■がいた』

女Ⅶ 『うぜえし』、つていう■。

女Ⅷ そういうの見て、うわつて（押し付けられると）、あーもう何か自分【存在しちゃういけない人】みたいな■

女Ⅰ つていう、「私」■は。

*

男Ⅱ 小八木くん、は、そういう子どもだったんだけど、普段はぜんぜんいじめられてるつていう感じではありませんでした。あんま仲間とか友達というところ強すぎるけど、『まあいるよね』つていう『積極的に無視はしないけど、別に絡むこともないし』

男Ⅲ くらいのポジションでした。確か、けつこう足がすごく早くて、低学年なのに8秒台とかで、小学校の頃は、運動ができるということが、ランク高くできるのに欠かさないことで、逆に言えば運動さえ出来れば、人として■認めてもらえました。

男Ⅳ でもマジメには「僕」も募金を考えてないわけじゃなくて、なんか【日本にいる罪悪感】というかはあつて、だから、その「ここ」、じゃない人に対してめちゃんと気を遣わなきゃいけないんじゃないかな。アフリカとかバングラデシュとかで、今、そういう状況の人つていうのはたしかにいて。「今」は見えてないけど、でも、「ここ」にはいるつていう。「僕」の卒論は確かそんな感じでした。

男Ⅴ 「おねがいしまー」

男Ⅵ でも、やる気とかはそんなある感じではないんですけど。

男I 「見えてないけど、だからといって「無し」ではありません」

男II その、「僕」は、昼休みとかの、終わりの時とかに、小谷木くんのことを、して、何かそんな強くするっていう、そんな感じのあれではなくて、でも入ったところがよかつたみたいで鼻血がフーって出て、『あれっ』っていう、テンパって、え、『何してんだ自分』みたいに。「バゴッ」っていう、机の音が響いて、それで一気にシーンっていう、なって、すごい全然、【物音が立たない、〇秒間】みたいな、長く感じて、注目が集まっちゃったので、だから「僕」は何か、頭を掻いて、「いや……」っていう、小声で。

〇秒間黙らせる

男II (頭をかき) あ、なんかちょうど今、みたいな。

男II そので、小八木くんは保健室にいつて、「僕」は、何か、職員室にいきました。〇時間目が、なんか自習みたいになりました。

男I セレブな感じの、【パーマで、色眼鏡で、メガネのつるのところがチェーンになっているセレブ】が、100円入れてくれて、そのお金が、チャラ男よりも少なかったっていうのは全然よくて、ただなんか【孤児とか発展途上国の子どもに興味がありますわよ私(わたくし)】みたいな。

男II そのでまあ職員室で、会議室、みたいなところで座らされて、なんか、で、まあ怒られて。「どうしてそんなことしたんだ」みたいなことを先生が。産休で代わりの先生だったんですけど。しかも、でも親とかも、呼び出しとかになって『あ、え、そんな大事(おおごと)になるんだ』でも、これって、小八木くんじゃなかったら、多分それは小学校のよくあるトラブル』『え、それっていうのは、その小八木くんに対する逆に差別っていうか、そういうこと?』

男I その、「今」、「新宿」で、東南口の、通り魔の犯行予告あつて「僕」はそれを知つて、募金してて、でも結果的に■それは起こらなかったの

男II その、小八木くんは、に謝つて、母親が来て、すごい帰りの車でめちゃくちゃボッコボコに殴られたっていう。けど、別に謝るのは全然問題ではなく、100%パー悪いことだったのでそれは素直に「ごめんなさい」で

男II 小八木くんは、それからけっこうすぐ、〇年生の終わりの時に転校しました。「養護学校に転入するみたい」っていう、噂で。

男I 蓋、開けて、コーンポタージュの、一口飲んで、ちよつと熱くて舌火傷して、今「〇時43分」です。

*

女S 東南口の(は)、エスカレーターがあつて、器用に、ママさんたちが通つて、ママさんたちは、ベビーカーをエスカレーターに斜めに乗せてました。エレベーターは、喫煙所のすぐ横にあるので、『あ、そこを避けてエスカレーターの方に行くんだろうな』と思ひ■、

女H 『ユミカになんていうメールを返したらいいんだろう』と、考えて、メールを開けて、『これって、わりと多分『返さないパターン』になるんじゃないか』と思ひ■、

女M エジプト■では、革命が起こっていました。

女I 献血のゆるキャラみたいなの■が通り過ぎました。

女S 何かテレビの撮影している人がいました

女I 『あ、そうだ』

女S 『日本は■20年後、どんな国になっていると思ひますか?』

女S 『高島屋に行こう』と思ひました。イケダさんが子どもが6月に生まれるということになっていました。高島屋までは甲州街道を挟んですぐの場所でした■
日本だとあんまりあれなんですけど、海外のどっかの国で、よく妊娠の、お祝いみたいな風習があるらしくて。だから、ああ、そういうギフトみたいな、買つてこう■と。

女M 14時43分で、煙草はアメスピなんで、結構長く吸えます■。

女H 『私』は、ようやく『目的』が見つかりました。

女I 『知らねーよ』

*

男M 「うるせーバカ」と、「僕」は言ひました。そのセレブに対していいました。『あ(マズった)』っていう、反射的なものでした。何に対する反射かといえば、セレブが言つた「頑張つてね」ということに対する反射でした。でも、小声だったので、セレブはよく聞き取れていないみたい■でした。

男M その言葉を聞きとれなかったのか、セレブはニッコリと僕に微笑み■しました。

男I 話しかけたがりみたいなのはよくいて、『うぜーよ』っていう、思うんですけど、「何でそんなことしてんの」「エライですよね」とか、「今って、その戦争とかあるつぽいけど大丈夫なの?」みたいな。『そんな、俺、黒柳徹子じゃねーし■』っていう。

男S

『えーおま、ちよつ、え、今、自分関係無いことにしたでしょ。え、今完全に自分切り離したよね。他人事にしたよね。えだつて、そんな切り離していいの？ 安心

できるの？ 俺に全部押し付けたよね、

女E

「元気な赤ちゃんを産んで下さい」

今、その言葉で。あとはよろしくついでう。それ、100円で買ったよね。そんで

女S

「私」は、高島屋にお祝いの、買

あーもう関係ないついでいう。関係無いこ

女E

いにいこうと思いましたが。

とにした。あー、はい今、そこで、気持ち

女S

それつて、『元気な赤ちゃんを産んで下さい』ついでいうメッセージ

ちよくなつたついでいうね。あーあー」

女E

を込めてるし多分。

ついでいう、「うるせーバカ」で■した。

女S

「元気な赤ちゃんを産んで下さい」

セレブはニッコリと微笑み■ました。

女S

い」つて、言っちゃいけない……

献血の、ゆるキヤラみたいなのが、高島

女E

「私」は、それを思い出して、歩

屋の方から歩いてきて、一緒の人に支え

女E

こうとして、足が、止まりました。

られて、エスカレーターをのぼつて行き

女S

『あー』

ました。「僕」は、『あれは明日、だから、

女S

木のところで、ホームレスの人が

血、の、準備をしとかなきゃいけないん

女E

います。女の人で、待ち合わせの

だろうな』と思いました。(明日)ついで

女S

人が、そこから微妙に距離をとつ

うのは、【2011年2月11日】■のこと

女E

ています。その周りに近づけない

でした。

女S

ので「邪魔」になっています。「こ

その日は2011年2月10日でした■。

女E

こ」は「新宿」の東南口■です。

【今14時44分です】

女S

か行きたいなあ』と思いました。

「僕」の足元に雑誌が落ちててAKBみた

女E

いなが南の島みたいな所でポーズみた

いなのとつて、『あー、海かー』つて思

女S

いました。『最近そういえば全然行つてな

かったし、今年の夏は彼女できたら海と

女E

か行きたいなあ』と思いました。

か行きたいなあ』と思いました。

女S

新宿で、通り魔が予告されていました■。

それは、実際には起こりませんでした。

女E

【今14時44分です】

【今14時44分です】

女S

『あー』

井黒

新宿で、通り魔が予告されていました■。

横手

それは、実際には起こりませんでした。

林

【今14時44分です】

清水

あの、(今)15分です。今の、この、男の人と女の人のお話をしてるんですけど、この人たちは、この後少ししたら死んじゃいます。でも、それは今回はやらないうちは全然関係ないんですけど、とりあえず、ちょっと後半に向けて一息入れる感じで、一瞬こつちも水飲んだりするんで、ちよつと力抜いてリラックスして頂いて。あ、15秒くらいしたら戻ります。

舞台空虚

井黒 あ、で、続けるよー、「今」14時44分

女H 「あ、へー、あ、え、うそマジで ぉめでとー」

女S イケダさんは↑その子どもが生まれるっていう、デキ婚で半年前に結婚して、予定日は6月中旬だったのでもヶ月とかで、だからもう結構お腹は大きくなってたはずなんですけど、「私」があつたときは去年の年末とかだったんで、そこまでっていう感じではなくて。イケダさんはデキ婚で、去年の末までは一緒に働いていました。苗字は前は秋元で、でも池田に慣れるために、一時期から意識してずっと「イケダさんイケダさん」「やめてよ」って。イケダさんはよく一緒にお昼行くと、「本当、不思議。だって、ここにいるんだよ、すごくない？ それって。だって、自分の中にもうひとりいるとか、ベタだけど不思議でー、いるんだなー」って

女M 木のところで、ホームレスの人がいます。女の人で、待ち合わせの人が、そこから微妙に距離をとっています。その周りに近づけないので「邪魔」になっています。「こ」は「新宿」の東南口です。

女H 高島屋、の、バラの花の包装紙でベタベタ貼る遊びが好きで、その（私の）、お母さんがよく破れないように丁寧に包装紙をとって、あとで、「私」が、〈包装紙で花を切りとって、ベタベタ貼る遊び〉ができるようにしてくれました。

女M 「それでね、産婦人科に行くんだけどー、聞いて、ちよっと」

女S 「あ、うん、」

女M 「なんかねー、そのママ友じゃないけど、産婦人科って情報交換するからわりと仲良くなつて。その聞いた話なんだけど」

女H 「あ、うん」

女M 「あんま今、『元気な赤ちゃんを産んで下さい』とかって、いうのまずいみたいで

女I 「あ、へー」

女M 「うん、そうだからそういうのって『元気じゃない子供もいるよね』みたいな配慮なんだと思うんだけど」

女H 「あ、へー」

女M 『あーそうなんだ』って結構意外で。挨拶みたいなものだと思ってたからあたし、全然気にしたことなかったし、『あーでも言われてみればでもまあそうなんだ』っていう

女I 「へー」

女M イケダさんは12月いっぱい仕事をやめました。「産休でもよかったけど、多分、しばらくちゃんと子育てをしたい」から

女M でも、だから、けっこうその出産とかにリアルに直面してるイケダさんに対して、

その『元気な赤ちゃんを産んで下さい』っていう気持ちでそういう送つてもいいの
かっていうのが私の足を止めて。まあ今日じゃなくても別にいいしっていう、生ま
れてからでいいじゃんっていう。でも、その気持ちを伝えるなら、『今』のこの勢いと
いうかタイミミングって。

ユミカの、もう、待ち合わせの時間になつてるので、〈返さない〉というのは、それ
はそれで『怒っているアピール』になる気がして、『や、でもそこまでじゃない』、
そういう捉え方はされたくないし』なので、早く送り返したいと思つていたんだけ
ど『私』は、いかんせん、この『わかったー』の先っていうのが。

*

あの、で。『僕』なんですけど。『僕は、』と「ごめんなさい」と言いました。保健室で、と
りあえず鼻血が収まつて、みんな自習とかしてる時間で、職員室の会議室みたいな
ところで、小八木さんに、謝りました。小八木くんは「うん」って小さくうなづき
ました。先生は「仲直りだからね」と言いました。『ていうか、そもそも仲違いして
いたわけでは全然なかつたんですけど』でもそれは『別にいいんですけど』。

エスカレーターの下、横の喫煙所ところに、女の人が出て、『暇そうだなあ』つ
ていう感じの『なんも考えてないんだろーなあいつ』『ああいうのが世の中を悪くす
る』

男Ⅰ 「小谷木くんの気持ちを考えなさい」

男Ⅰ 「はら」

男Ⅰ 「いきなりぶたれたらどういう気持ちがする？」

男Ⅰ 「はい」

男Ⅰ 「どういう気持ちがするの？」

男Ⅱ 『いや、僕は小八木くんじゃないのでわかんないんですけど』

男Ⅰ 「嫌な……気持ち……」

男Ⅰ 「うん」

男Ⅱ 『え、ていうか、いるんだから、聞けばいいじゃないですか』

男Ⅰ 「どんな気持ちがありましたか？」

男Ⅱ つていう

男Ⅲ 『小谷木くんに』

男Ⅳ 『僕じゃなくって』

男Ⅰ 「はら」

男I 「何でそんなことしたの」

男I 「あー■」

男II 「あー■」

男I 「何で、そんなことしたの■」

男III 「何で、そんなことを、したの」

男IV 『え、お前とか全然アフリカとかそういう子どもとか想像したこととかないでしょ。』

「ここ」じゃない場所のことなんて全然知らないでしょ」

男S あー■

男II (あ)の、「僕は、何か、だから、その時に何を言うっていうか、『何でっていうことで、答えられんのか』っていう、このことっていうのは■。それは、だから、僕は答えられませんでした。

男I 「むかついた」「むしろくしゃした」「注目集めたい」「調子にのってしまいました」でも全然いや、それ「何でっていうか……」頭の、後ろを、■掻きながら。

男II 「発展途上国の子どもたちにご支援をお願いします」とササキさんが言いました。

男S 「お願いします」

男III 「100円で5人の子供の命が救えます」

男S 「お願いします」

男IV 「僕は、海外は、大学の時にグアムと韓国にしか行ったことがないから、そういうアフリカとかバングラデシュの子供とかが、正直なところ全然よくわかりませんでした。でも……あ、今、そうだから、「今」は、「今」時々分で、コーンポタージュを飲んでるんですけど、あの……、ちよつと嘘というか、あつて、この「今」のつて「本目ではなく、実はこれは、6本目で、だから実質今のところつまり360円マイナスで、集めたのが300円なんでマイナス60円っていう、いや、何か(それを)言うのが(は)ばかられたと言うか)……■。

*

女S 『え、言ってもいいじゃん全然、■そんなこと』

女II 「私」がだから想像すると、やつぱり、それを、「元気な赤ちゃんを産んで下さい」っていうのが無しな理由が■わかんなくて

女III 『え、だって、え、何で?』っていう、■全然(わかんない)。

女I パチンコ屋の歩道の方の所で、募金をしている人が「頑張ってるなあ」。でもそれが、でも、「私」には何か軽くイラツとして■

女S 「善意押し付けんなよ」

女I ■っっていう

女M でもそれっっていうのは全然想像でしかなくて、わかんないんで、もし、イケダさんの子どもが、そういう障害を持ってたりしたら、『本当にそういうことを言えんのか』『責任とかとれんのか』『え、流産とかだったら』っっていう■、その、〔私は。〕

女H 【喘息で、どうしようもなくなっている時】っって、丸まりながら↑息できないから、気管支が、「ヒュー、ヒュー」いう音を聞いてて、気管支が「ヒュー、ヒュー」いう音を聞きながら、ただこの症状が収まるのを待ちながら、『早く開けないかなあ、夜■っっっていう、〔私は。〕

女S いつも、それは夜でした。夜、寝た後にやってきました。夜寝た後に、目を覚まして『あーなんかヤバイかも』っって思ったらもう遅くて、咳止めを飲んで必ずやって来て、で、それから「時間くらい、ずっと気管支が「ヒュー、ヒュー」と言ってる■っっっていう、〔私は。〕

女H 必ず一時間くらいしたら収まりました。けど、その一時間はとても長いものでした。何か、その時は、〔世界〕みたいなのがばーって広がって、何か自分がどんどん小さくなって、けど、〈ヒューヒューの時〉っってすごい（世界が）広くて、その中で（あたしが）いるポジションっってほんとにすごく微妙なこの辺とかしか全然なくて、しかも、誰ともそんなことは共有■できなくて。

女I エジプト■では革命が起こっていました。

女H だから、そのとき、〔私は〕、「大丈夫だよ」っってお母さんに言われることがとてもうれしか■っつたんです。

女S 〈ヒューヒューの時〉

女H お母さんは、背中をさすってくれました。小さい頃は同じ部屋で寝てて、でもそうなって、「お母さん」っって呼ぶと、わざわざ起き上がって「大丈夫だよ」と言いながら背中をさすってくれました。その「大丈夫だよ」っっていう、それが、その一人ぼっちとか、に直面してる「お母さん」っって呼ぶ私には〔安心〕して、いることができる言葉で、だからそれがすごく嬉しかって、「大丈夫だよ■」っっていう、

女S 「ヒュー、ヒュー」

女M 「大丈夫だよ」

女S 「ヒュー、ヒュー」

女M 「大丈夫だよ」

女S 「ヒュー、ヒュー」

女S ……（大丈夫だよ）

女S 「ヒュー、ヒュー」

女 ……(大丈夫だよ)

女H いつの間にか【安心】■して眠っていました。

*

男I 殺すんだったら「僕」が、明日、誰を殺すだろうかっという。さつきからあつちに
よっかかってる大学生みたいなのは、

男A 「あー殺すかもしれない」

男I OLっぽい、ロングのメガネの■は、

男A 「あー殺すかもしれない」

男I リーマンで、確実に営業サボりみたいなのは■は

男A 「あー殺すかもしれない」

男I 高校生が、カップルでマフラー■(巻いてるの)

男A 「殺■す」

男M コーンポタージュでー、の。あ、あのー、100円で、5人の子どもの命が救えるって
いうことでーただ、僕が120円のコーンポタージュを買うことが、つまりの人の子
どもの命を奪うことになって、今、コーンポタージュが6缶で、18人なんで、18
人の(命を奪う)。でもやっぱ、コーンポタージュが暖かいし美味しいしっという
喫煙所のケータイ見てる女

男A ……

男A エジプトでは革命が起っていました。55万人が広場に集まって■ました。

男H 前、秋葉原で「人が殺されるっという事件がありました。10人が負傷しました。捕

まったのは55才の冴えない感じの■男でした。

男S 「人なので、金額にすると140円です。」

*

女S 明日、もし起こったら、「私」は、テレビとかで見て、あ、あそこだっ。昨日行っ
たっ。昨日の、あれ、もしあの時間に起こってたら、っという、【身の毛のよだつ
思い】とかで、【無関係では多分いられない】「あー何か関わっちゃった」それだけ
で、もしかしたら泣いてしまうでしょう。【死んじやった人達と何が違うんだあたし
は】っという、思うでしょう。何も出来ないのに【何か自分にもできたんじゃない

か』思うでしょう。ただ、明日それは起こらな■かったつていう。

女I イケダさんは、よくお腹をなでて■ました。

女II 小学校の6年生の夏でした■。

女III 喘息になりました。真夜中のことでした。いつものことでした。でも■つらいことでした。

女IV 目が痒くなりました。喉の奥の下のほうがだんだんと閉められていくような気がしました。ヒューヒューと音がし始めました。だんだんと呼吸が辛くなって来ました。痒くなって来ました。胸の真ん中をかきました。背中をかきました。本当に掻きたいのは皮膚の内側でした。ヒューヒューが激しく■なつてきました。

女S それは真夜中でした■。

女VI 痒くなつて来ました。鳥肌が立つて来ました。息ができなくなつてきました。寝ていられませんでした。うずくまらずにはいられませんでした。「世界」とかがだんだん広くなつて来ました。私は一人ぼつちを感じました。「お母さん■」と言いました。

女VII 隣に寝ていたお母さんは背中をさすつてくれました。起き上がつて、私の背中をさすつてくれました。「大丈夫だよ」お母さんはいいました。でも全然それは治りませんでした。いつものことでした。でも、私はすごくもう息ができなくなりました。「大丈夫だよ」とお母さんはいいました。「大丈夫だよ」とお母さんは背中をさすりました。それは真夜中でした。全然、私のヒューヒューは治りません■でした。

女I 「大丈夫じゃないじゃん■」

女S 広い家に引越しました。4年生の春でした。私は自分の部屋で眠るようになりました。お母さんとは別の部屋でした。もう、大丈夫だよ、と言つてくれる人はい■なくなりしました。

女II 私はひとりで眠るようになりました。ひとりでヒューヒューと気管支を鳴らしました。

女I それは、いつも真夜中でした。

*

男S ■『何べ』

男VI あー

男I ■『あなたは』

男III あー

男I ■『どうどう』

男VI あー

男H ■『ことを』

男S あー

男M ■『したんで』

男I あー

男Y ■『しょうか?』

男S あー■

男H っっていう■か

男I 「ごめんなさい」本当に悪いことだと思っっています。それは本当です。けど、だから、何でかっっていう、言ったら、全部なんか違うっっていうか、「わかりません■」とっかっていうことになりました。

男S 小八木くんは何を言っ欲しかった■んでしようか?

男M ていうか、正確に言おうとすればするほど、全然ずれてきて、もう、その、わかるんですけど「僕」は、ほんとにごめんなさいと思ってるんで、逆にそれホントただの身勝手ですけど、「僕」がちゃんと言おうとすれば

男H 「わかりません」

男Y 小谷木くんは、その年の6月に転校しました。養護学校に転校するらしいっっていう、噂で。

*

女I 年末の納会がイケダさんのお別れ会兼みたいな感じになって、支店長が「いろいろ大

変だと思っけど」と言っってから、「元気なお子さんを産んで下さい」と言いました。それで、みんなで拍手をして、「じゃあ食べましようか」っっていう事に■なりました。

女E 募金の、女の人が「5人の命が100円で救えます」と言っっていました。そういうワクワクみたいなものになるっ言うことでした。アフリカの子どもみたいなのが、こっち向いて見るポスターみたいなのがありました。「私」は、知らない誰かの命を奪っっているような気持ちにさせられ■ました。

女M 『ていうか■、だからほんと善意押し付けんよ』

女I 『支店長はイケダさんの子どもが、障害者だったらどうするんですか?』と思っました。「え、死産とかだったら、どう責任とるんですか?」

女S 『ホント、そんな予告とかする奴、死ねよ』、と思っました。「死刑になるんだから、自殺してよ、マジで」本当に、そういう人は迷惑なだけでした。「勝手に死んでくれれば全然迷惑がかかんないのに、死ぬときに迷惑かけるとか、意味分かんねーし■」

女M 『っっていうか、ユミカだっって、何であたしが困ってんのかとか、何か馬鹿馬鹿しく

なつて、えだつて約束破つたのそつちじゃん■』

女Ⅱ 『あー、だから、別にそういう放置とかでもないのかもう、それでいいのか■』

女Ⅲ ベビーカーのお母さんたちが通りすぎて行きました。喫煙所を避けて、ベビーカーを器用にエスカレーター■に斜めにのせてました。

女Ⅰ 『あーもうだから全然そんなのあたしとかかんけー（関係）ないし■』

短い間

女Ⅳ お母さんはお腹をなめました。そこに、子どもがいました。『将来はどんな子どもに育つんだろう』と思いました。つわりが酷かったかもしれないませんでした。大きなお腹の写真を撮ったでしょう。「今蹴った」と、はしゃいだでしょう。希望にあふれた未来を描いていたでしょう。「元気な赤ちゃんを産んでね」と、産婦人科の看護師さんに言われたでしょう。彼が生まれると、たくさんの人が祝福したでしょう■。

女Ⅴ 彼は、15年後に犯罪者になつて、殺人予告の容疑で捕まりました■た。

女Ⅰ 明日雪が降るでしょう■。

女Ⅵ 明日新宿で通り魔事件が起こる、で、しょう■。

*

男Ⅰ女Ⅱ

ホームレスが↑女の、広場のところにいました。「邪魔」になつていました。ふつと、そのホームレスは空を見上げました。何か、ポーツと見てるつていうか、ちゃんと、見てました。僕／私もつられて見上げました。何か、青空でした。

僕／私は、なんもないじゃんと思いましたが、けど、何か、見上げて、『ああ、いいなあ』と思いました。何か、青空でした。2011年の、2月、10日、でした。【街頭ピジョン】■。

*

S

2時のニュースです。25万人あまりの反ムバラク陣営がカイロ中心部にあるタハリール広場に集結しているエジプトでは、現在も混乱状態が続いています。この大規模な混乱を受け、本日夜、ムバラク大統領による会見が行われるとの情報が入って来ました。なお、この会見の内容について、一部では、ムバラク大統領の退陣表明が行われるのではないかという見方も出てきています。なお、この大規模集会を受

けて、当局はこれまでに中心人物と見られる複数の人間を拘束。鎮圧に乗り出して
いるものの、facebookやtwitterなどのSNSを介して情報をやりとっている集会参
加者の活動は、中心人物を捕らえたところで縮小することはありません。チュニジ
アから始まり、エジプトに飛び火した民主化の動き。今後は、40年以上にわたって
カダフィ大佐による独裁政権が続くリビアなどへもこの動きが波及していくという
見方が強まっています。なお、新宿の通り魔予告は起こりませんでした。以上、20、
二年、2月、10日、の、2時、のニュースでした。

*

男E 「あ、ササキさん」

男M 「あ、うん」

男A 「何か、エジプトとかで今、革命とか起こってるって、みたいですよね」

男M 「うん」

男S 「あ、何か、フェイスブックとか使ってるらしいですね。すごいっすよね、フェイ
スブック」

男M 「あ、うん」

男I 「あ、でも、エジプトとかってあれ、アフリカですよね」

男M 「うん」

男H 「あ、でもこれって、募金って、え、エジプトとかでも使われるんですか？」

男M 「いや」

男I 「あー」

男M 「わかんないけど、多分」

男A 「え、あ、そうなんだ」

男M 「あ、だって、アフリカ広いし」

男I 「あー、そうっすよね」

男M 「うん、広いよ、アフリカ」

男S 「あー」

男M 「エジプトとかは大丈夫なんじゃないの。孤児とかは」

男H 「あー、孤児とか」

男M 「わかんないけど」

男A 「あー、広いつすもんね」

男M 「あと、ストリートチルドレンとかそういう」

男S 「あーストリート■チルドレンとか」

男M あの 아프리카とか バングラディッシュの子どもたちとかって、でも ホント結構どうでも いい存在で、だつて見たこともないから、全然リアルじゃない■つていうか

男S 「え、栄養失調とかで死ぬつて、それどんな感じなんですかね■？」

男I いや、聞かないですけど。

男A 「お腹、ぶつくりして、そんで、バーんつて弾けるみたいな感じなんですかね」

男I いや、聞かないですけど。

男E ■世界中で、貧困とかが原因で死ぬ子どもは一日結構数万人とかいるらしいんですけど、でも明日、新宿で10人くらいの人を通り魔によって殺されるかも知れなくて、どっちが大事つて行つたらやつぱりそっち(新宿)なんで■、「僕」は。

男M 「あたし」

男I 「はら」

男M 「彼氏が、こういう募金とか、やめれば、つて。意味無いじゃんつていう。え、だつてお前普段、そんな気にしてないじゃん。あれつて、結構自己満とかなんでしょつて。そんなんだつたら、普通に仕事して、募金とかに回したほうがいいんじゃないの■？ つていう」

男I 『あ、ササキさん彼氏いる■んだ』

男M 「それが原因じゃないんだけど、それで、ケンカして別れるかなつていう。『あ、そう思つてたんだ。あ■、何かそんな感じだつたんだ』ひどくない？ ひどいよね？」

男I 『あー、その情報すつげーどうでもいいんだけど■ど』

男A 『誰でもよかつた』と思ひました。その、アフリカでも バングラディッシュでもどこでも。けど、それつてすぐ身勝手なことと、『え、そんな身勝手に募金■とかつて、いいの？』

男I (ゆつくり) 『なんで、あなたは、小八木くんの、ことを、なぐつたんですか？』

男E [僕]は、[今]、新宿の東南口で、コーンポタージュの缶目を飲んでます。[4時45分]です。あと一分で終わります。

*

女S あー革命[今]起こつてるんだつていう、「私」は、「今」14時、45分です。あと、一分です■。

女A [新宿]には、明日、通り魔予告があつて、でも『まあ自分は大丈夫だろ多分』みたいな変な根拠のない自信があつて、それよりもつとつとユミカにメール

女Ⅹ 「え、でもイケダさんはなんて思うの？」

女Ⅸ つて聞いたら、

女Ⅸ 「うーん」つて■いう、

女Ⅰ 「その時になつてみなきやわかんないよ」

女Ⅰ 「その時つて？ え、今じゃないの？」

女Ⅰ 「あ、うん、まあそうなんだけど」

女Ⅱ 「え、じゃあわかんじゃん」

女Ⅲ 「あーまー生まれた時とか」

女Ⅳ 「え、そつから『元気な赤ちゃんを』つて言われても遅くない？」

女Ⅴ 「わかんないけど」

女Ⅵ 「え、そうじゃん」

女Ⅶ 「なんかね、」

女Ⅰ 「いや、やつぱり不安とかもあるし」

女Ⅰ 「わかんないし、自分だけど他人だし、お腹の中とかは」

女Ⅰ 「でも、だから、生まれてからも、ずっと別に不安とかなくなるわけじゃないじゃん」

女Ⅰ 「あー」

女Ⅰ 「生まれたからハイおしまいじゃないし。不安とかもそつから■だし」

女Ⅱ 〈不安〉だからすぐ泣きました。夜中、ひとりですごく泣いて、でもそれは息苦しいのが辛いからじゃなくて、息苦しいのがすごく寂しいからで、『みんな、何でそんな平気で寝ていられるの？』『何で私は眠れないの？』『どうして一人ぼっちにしたの？』『私を、の、ことを■何で無視してられんの？』『世界！』つていう。

女Ⅰ その日は【2011年2月10日】で、【今】は14時45分です。

男Ⅲ 「わー■三」

男Ⅳ つていう、大声で叫ぶ人がいて、すげーびつくりしてほとんど全員が振り返つて、「キタ！」振り返つて、僕も。「あ、遂に！」「コインポタージュ持ちながらポケットの入つたケータイ■を出して、「あ、え、どこ」

女Ⅱ みんな一斉に声のする方に振り向きまます。私も振り向きまます。身体が硬くなります。心拍数が上がります。「そこ」を探します。ナイフで、刺されている、三人組の男がいるそこを■探します。

女Ⅰ けど、「そこ」は、ホームレスの、女の人の叫び声です。さっきの、女の、気が狂つたホームレスが叫んだだけです。

男Ⅲ 結構すげー「最低なこと」言う■んですすけど……

男S [僕]

男E 正直、それが、何か、がっかりつていうか。ワクワクして、しまつて、[僕]は

女M [私]は〈残念に思つて〉いました。[私]は、その叫び声を聞いて「ワクワク」して、それが、起こる〈とき〉、[私]は「期待」■して。

男M ケータイが、手の、ポケットにしまいま[■]す。

男I 多分、写メ取つて、ツイッターに上げようと、その「奇跡の瞬間」みたいなのを[■]

男E [共有]しようとしているつていう[■]。

女M 頭のおかしいホームレスは去つて行きます

*

男S 「募金しないのー？」と小学生くらいの子どもが母親に聞いていました。通りすぎて、子どもはこつちを振り返りました。母親は無視したみたいで、こつちを向くことも[■]ありませんでした。

男M ササキさんの持つてる看板には、ちょうどそのくらいの子が書かれて[■]いました。

男I 通りすぎて「白い所」に入つていった子どもと目があつて、仕方なく、こう、ちょっと顔を綻ばせたら、子ども振り返つていつてしまったので、「あ、なんか今、俺すげーせつねー」[■]つていう。

男E こいつと、アフリカの子どもと、何が変わる[■]んだつっー

男M コーンポタージュが三缶で360円で、募金で、僕の箱に集まったお金が300円とかで、しかも、電車賃とか、考慮に入れてないんで。一人20円なんで、「5人救つて、18人殺して、でも[僕]はアフリカとかの子どものこととかも考えてて

男S 「あ、え、僕、何してん[■]でしよう」

男E 『いや、慣れてるんですけど、やっぱり無視は、されたくないんです。こつちの勝手なあれかしんないけど、だからあれですけどだつて、あなたの子どもと同じ年令の子どもが、「今」死んで[■]るんですよ。ねえー』

男M 「え、あ、はい。すいません。あ、すいません[■]。あー、あ、あー、あー……」

男M その行つちやつた子どもを見てたら、僕は、いつの間にか、「茶色の所」から「白い所」、に少しだけ、入つていました。それで、警備員さんに怒られました。

*

女Ⅴ (心のなかに) おめでとうのあれがどうしてもあるので、「私」は、イケダさんに。ただ、でも、それは(を)、伝えるのは、「悪」なのかも、伝えてしまったら、イケダさんを傷つけてしまうかもしれないませんでした。意外とイケダさんは気にしないので、だから多分「ありがとう」とか言ってくれるんだろうけど、でも■っという。

女Ⅳ その、「おめでとうとか言いたいの言っちゃいけない」、「っという、■のは、
女Ⅰ 「あーだから、そっか■」

女Ⅴ 喘息の時に、誰かに「大丈夫だよ」と言っしてほしいなあと思っていました。背中をさすってもらって、いつの間にか眠りについてて、もう、「ヒュー、ヒュー」の息は治すっという。小学校4年生の頃でした。

女Ⅲ 高島屋に、私は、行こうって、で、イケダさんの、お祝いの、男の子向けの何か、わかんないけど、買おうと思いました。絶対に、出産の前に渡そうと思いました。「元気な赤ちゃんを産んで下さい」と思いました。でも元気じゃなくてもいいと思っていました。もしかしたら元気とかじゃないのかもしれない、でもそれはわかんなくて「元気」っというのは、だから、言葉だけの話で、それは、どちらでも構わなくて、ただその(元気な)っというのが、いいなあと思いました。私は、「元気な赤ちゃんが生まれるように」っという、ちゃんと、伝えたいっというのはいすごいだから「身勝手」なん■だけど

女Ⅴ 「私」は、それを「言いたい」っ■いう。
女Ⅲ 元気な赤ちゃんでなくても、全然良くて、私は、ただ、それを言いたい、っという、伝えたいっという、その気持は、ただの、「私」のわがまま、で、す、が、それは、(イケダさんに) 向けて、それは「共有」したら、「元気な赤ちゃんを産んで下さい」■

女Ⅴ 「私」の「わがまま■」を「共有」してもらう、
女Ⅰ っという、こと、■だけど
女Ⅳ その「わがまま」っという、■のを、
女Ⅴ あ、っというだからケータイが、を、メールで■
女Ⅳ 「わかったー」
女Ⅰ の後に
女Ⅲ 「大丈夫だよ■」

女Ⅴ と打って、ユミカに送信しました

女Ⅰ 明日、雪が降るでしょう■。

女Ⅳ 明日、通り魔事件が起こるでしょう■。

女S イケダさんの子供は6月に生まれるでしょう■。

女E 煙草を捨てます。私、は、高島屋の方に歩き出します。池田さんの、プレゼントを
買いに行きます■。

女S 「元気な赤ちゃんを産んで下さい」と、[私]は、池田さんに伝えようと思いました。

女E それで……(いい言葉が見つからない)、伝えます■。

女S それは、とても「怖い」けど「嬉しい」ことです。

女E [私]は、「募金」をしました。

スタンドの、募金する

スタンドの、受け取る

男M 「ありがとう「おんまー」

男I と、言いました。

女S 「ビュー、ビュー、ビュー……」

女M その日は2011年の、2月の10日でした。[今]、14時46分です。

横手 それでは

井黒 パ

松原 ブ

林 リ

清水 ック

横手 イ

松原 メ~~~~~
(羊の鳴き真似)

清水 …ジ (無視)

林 リミテッド

井黒 始めます

暗転

明転

男と女の死体 (男||松原、女||林)
周りには佇む心人。泣くこともしないで喪に服している。

清水・井黒 2011年2月10日木曜日でした。私／僕は新宿にいました。

横手 終わりです。

暗転

了